

20097

血管造影・造影検査画像記録配信システムを用いたカテ室の「のぞき穴」

当院の心臓カテーテル室フィリップス社製の Angio 装置を使用し、ライブ施設としても使用している。今回、血管撮影・造影検査画像録画配信システムを導入した事により得た利点を紹介する。

ライブ中継の際は、カテ室内の大型機材も少なくなり患者様への圧迫感が軽減でき、画像放映スタッフはカテ室外よりカメラ操作を行う為カテ室内のスタッフは少なくなり清潔度の向上にも繋がった。

フィリップス社製大型モニタ FlexVision はスイッチャー機能が搭載されており、使用側で容易に画面選択操作が可能である。Flexvision にカメラシステムを連動させることで X 線透視画像、ポリグラフ、イメージモダリティ画像も同じタイムラインで観察、記録でき、更にカテ室内マイクから音声を Mix することで教育画像作成のツールとしても役立っている。そして配信も可能であるため、カンファレンスルームなど離れた場所でもカテーテルの状況を共有している。

当院カテ室は直列に 3 室位置する為、それぞれのカテ室で緊急事態が生じた場合も、別のカテ室では気付かない事もあった。緊急事態の際は「人を呼ぶ」ことも重要な機転であるがその場を離れがたい現実もある。このシステムを導入した際に、カテ室内に造設したモニタによりそれぞれのカテ室を何気なく「のぞき見」している。このモニタを活用し、別のカテ室の進行状況を確認でき緊急事態の際も様子を見て駆けつけることが出来るようになった。

今は日常の情報共有ツールとして使用しているが、今後は教育や患者様説明資料作成ツールとしても広く活用していきたいと考える。